

★ まちづくり ニュース



ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

213号

2019年6月27日



常盤台の景観を守る会

常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 「羽田空港の機能強化」説明会

6月13日(木)19時からの志村コミュニティーホールの説明会、参加者は60名だったそうです。成増のアクトホールでは或る人の「大事故が起きた場合、このルートは撤回するか」という質問に、国交省は答えられませんでした。その人の友人が志村で再び質問しましたが、やはり答えられませんでした。会場の質問や意見は一人を除いて全て反対でした。

・ 出口調査の結果

- ① あなたは今日の国交省の説明で納得しましたか？
・はい 2 ・いいえ 38
- ② あなたは国交省が進めるこの計画に賛成ですか？
・はい 7 ・いいえ 31

これはWさんが仲間と行った志村での調査です。参加者60名中答えた人は約40名でした。出口が複数だったかもしれません。

・ 見直し要請の陳情を提出

新しく5月27日に出し直した守る会の陳情は、このとんでもない航路案の見直しを求め、渋谷や品川のように国交省へ意見書を出して欲しいというものでした。が、なんと板橋区議会は不採択としました。次ぎの陳情提出は9月だそうです。

・ 参議院議員会館で国交省ヒアリング

6月24日、都心低空飛行問題東京連絡会が要請した国交省のヒアリングがありました。様々な質疑応答の中で国民の賛成は得られていないことを認めました。事故が発生したら誰が責任を取るのでしょうか。

○ 図書館跡地などの問題

現中央図書館が平和公園内に移転するあと、取り壊すのか、何に転用するのか、など住民不在のまま検討が進んでいるようです。

7月22日には地域センターで何かしら説明があるかもしれません。

常盤台住民からは、小規模でもよいから図書館または図書館機能を残して欲しいという希望を、前の図書館長の時から伝えてあります。

○ まちづくりニュースの配布

この「まちづくりニュース」もボランティア精神で配達に協力して下さる23人ほどの方々のおかげで、16年間、213号までに継続することができています。

配布に関しては、その地域の担当者の判断にお任せしており、マンション・アパートなどはチラシの類お断り(チラシではないと思っておりますが)の貼り紙があったり、あまり関心を持たれていないと判断する場合がありますので、配布しないケースが多くなっています。

たとえ一時的な居住者であっても、このまちの人達がどういう思いを持っているか、このまちの歴史や環境を知って貰いたいと考えて、アパートにも入れる担当者もいます。

お断りくだされば次号からは配布しませんので遠慮無くお知らせ下さい。

先日は配布していないマンションの方から電話でご希望を受けました。もちろん作る側、配る側からは広く皆さんに読んで頂けることは喜びでもあります。

また、配布担当者の皆さんも、16年も経つとさすがにご高齢となっていますので、負担を軽くするため、近所の周りだけでもご協力頂けると有り難く、お申し出をお待ちしています。

このひとにインタビュー(5)

常盤台の芥川賞作家 柴田翔①

荻窪の閑静な住宅街で、私たち中高年の間ではほとんど伝説的な存在である柴田翔さんは、穏やかに私たちを迎えてくれた。最近足が悪く減多に外出されないそうだ。

翔さんは昭和一〇年代の青年たちにとってバイブル的な小説「されど我らが日々」で芥川賞を受けた。常盤台から芥川賞作家が出たのは、後にも先にも柴田翔だけである。

それにもかかわらず私たちがその後の彼の文学活動に疎いのは、彼が「されど我らが日々」で時代の寵児となった事に踊らされず、ゲーテの研究や東京大学・共立女子大学などでの教育職に軸足を置いて、小説創作にががつしなかつたからである。

しかし最近でも二〇一七年に「地蔵千年花百年」というかなりの大作を上梓しているように、まだまだ小説家としての活動は衰えてはいない。私達が知らないだけである。

特に「記憶の街角 遇った人々」は翔さんと常盤台の関係に興味のある人は是非読んで貰いたいと思う。

これは「日本経済新聞」に二〇〇〇年に連載され、二〇〇四年に筑摩書房から出版されたもので、翔さんの子ども時代の常盤台の姿が描かれている。

インタビュー再開

四回で終わっていた「この人にインタビュー」を久しぶりに再開します。二丁目にお住まいだった柴田翔さんへのインタビューを三回に分けて掲載します。また、希望するインタビュー相手がありましたらお知らせ下さい。

オリンピック騒ぎ

来年に迫ったオリンピック・パラリンピックですが、チケットを申し込んだ人は七人に一人の割合で、お祭り好きの日本人としては意外に少なかったそうです。

金額が高い、申し込み方が分からない、などで中高年者に不参加が多かったようです。

しかし、その理由の一番は、何より酷暑の中での観戦やそれに伴う移動に耐えられないと予想するからでしょう。外国人が熱中症で倒れれば、自分のことに構ってくれる前に救急車が使われ、手遅れになったり、迷惑を掛けるだけの存在になりかねません。

賢い中高年は、クーラーの効いた部屋で、飲み物片手に声援を送るのが最善です。

それにしても招致運動での黒い話はどうなったのでしょうか。オリンピックで儲けようとするのは納得できないし、そのために都心低空飛行のような国民の安全を犠牲にするほどの価値はありません。しかも日本国民のオリンピック支持率は候補国中最低でした。

国策などに踊らされる中高年ではないのですが、心配なのは安易に考え無しに直ぐ踊ってしまう若者達なのです。

常盤台公園のはなづくり

六月七日、九時に板橋区から注文した花の苗が配達されました。

協力して下さる方を交えて、雨になる前に植え付けることが出来ました。植え付け後の水やりの手間が省けてほっとしました。

思ったより苗の数が少なくて、こちらの注文数が少なかったのかも知れませんが、空き地が出来てしまったので、三丁目の苗屋さんから二〇数株買って補充しました。

ところが翌日掘り取った穴を残して幾つか無くなっていたのです。

別の所では、アカンサスという面白い葉や花を咲かせる植物が無残な折り方で盗られていました。

Tさんの話では南常盤台のあるおばあさんだということはあるが、認知症もあるかも知れないので深く追求できないだろうということ。子どもの落としのお金を返さなかったり、自転車ごと持って行こうとしたこともあったそうです。なかなか対処するのは難しそうです。

花泥棒の話ばかりでは悲しいことです。

常盤台を散歩すると、色とりどりのアジサイが楽しめます。アジサイはすぐ挿し木できるので、気に入った花を見つけたら挿してみましよう。もちろんその家の人にお願いで許可を得てからのことです。

